

株式会社椿本チエイン

2012年3月期 第2四半期決算説明会

2011年 11月17日

2012年3月期 第2四半期 連結業績報告

注) 本資料で表記する「上期」は、当該連結会計年度における
4月1日～9月30日、「下期」は、同10月1日～翌3月31日を
示します。
(海外子会社の一部は、1月1日～6月30日、および7月1日～12月31日)

1. 上期レビュー 決算ハイライト

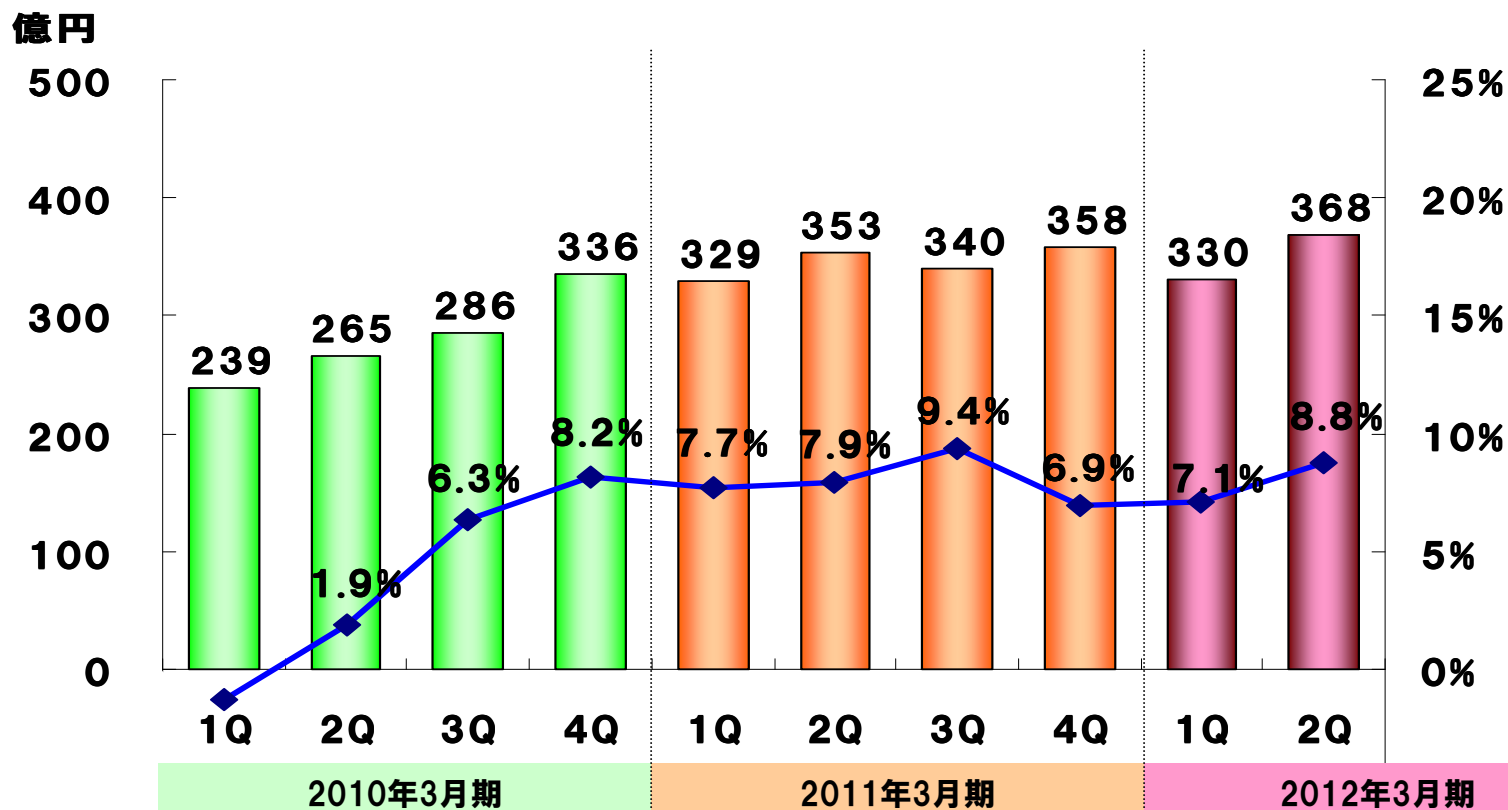
- **売上高**：震災の影響による自動車部品の落ち込みをチェーン、精機などの伸長でカバー。
前年同期比 2.3% の微増収
- **収益面**：増収効果などにより営業利益率は 8% 台に回復

(単位：百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	対前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
売上高	68,270	69,865	1,595	2.3%
営業利益	5,341	5,567	226	4.2%
営業利益率	7.8%	8.0%		
経常利益	5,410	5,686	276	5.1%
四半期純利益	3,159	3,108	▲ 51	▲ 1.6%
1株当り四半期純利益	16.98	16.71	—	—
(為替レート 1US\$)	88.91円	79.75円	—	—
(為替レート 1EURO)	113.82円	113.73円	—	—
自己資本比率	45.3%	46.2%	自己資本/総資産	
D/E レシオ	0.39	0.37	有利子負債額/自己資本	

2. 上期レビュー 四半期毎業績の推移

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）

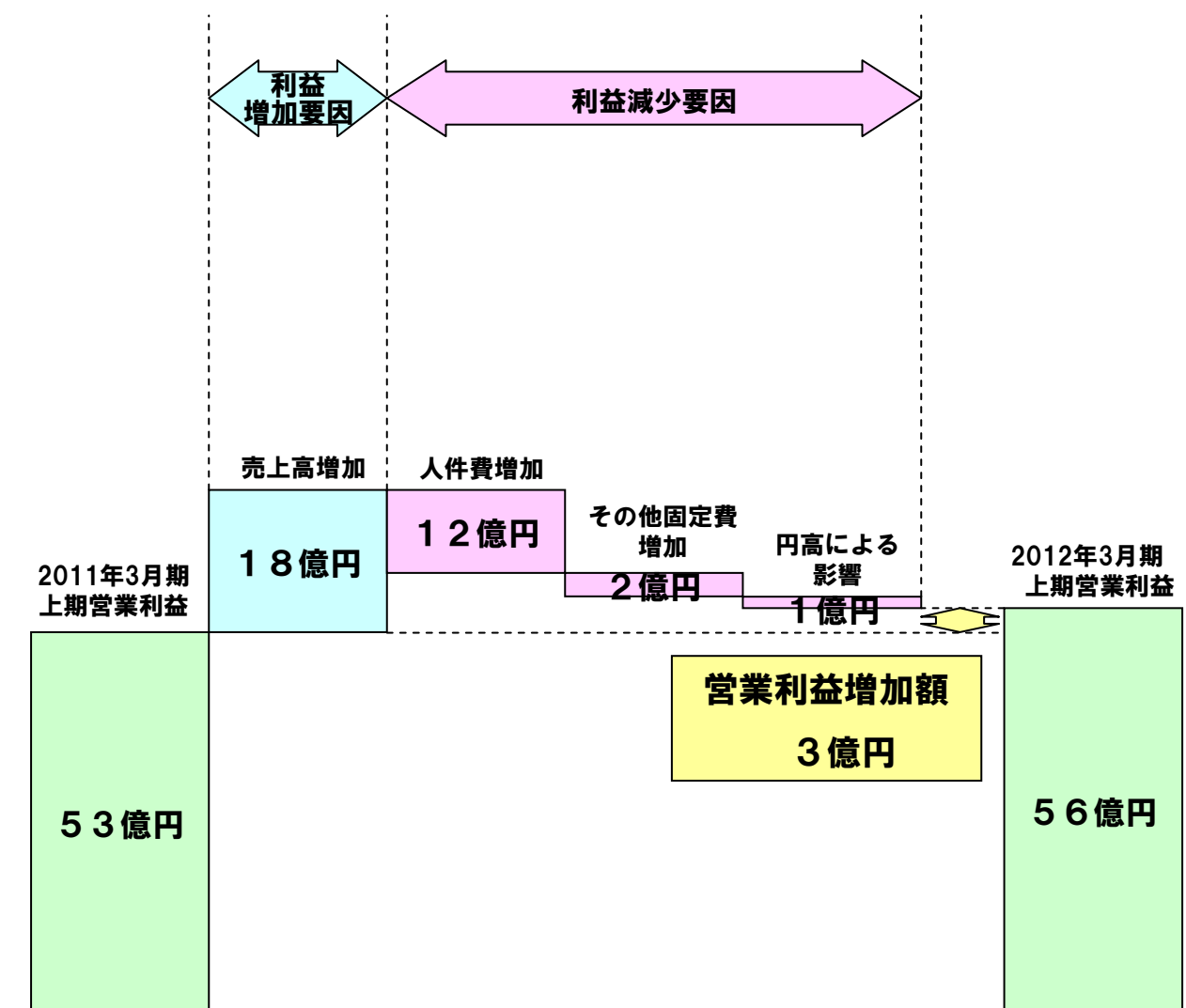


主な為替レート	' 2010/3 通期	' 2011/3 通期	' 2012/3 第2四半期累計
US\$	92.90円	85.74円	79.75円
ユーロ	131.18円	113.14円	113.73円

単位：億円、：売上高、：営業利益率

3. 上期レビュー- 営業利益増減要因分析

■ 2011年3月期上期 vs 2012年3月期上期



<営業利益増加要因>

- ①売上高増加 計18億円
・売上高増加に伴う粗利増加

<営業利益減少要因>

- ①人件費増加 計12億円
・給与、賞与増加等
- ②その他固定費増加 計2億円
・生産増加に伴う経費増加等
- ③為替(円高)影響 計1億円

注記：
2012年3月期 第1四半期より「TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE KOREA CO.,LTD.」を連結子会社としました。
(前期までは非連結子会社)

4. 上期レビュー 事業セグメント別内訳

5

- チェーン、精機が増収増益、マテハンも黒字転換、自動車部品は震災影響により落ち込むも、上期後半から急回復。

	(百万円)		
	2011年3月期 上期実績	2012年3月期 上期実績	前年同期比 増減率
チェーン			
売上高 ^{※注1}	23,563	25,964	10.2%
営業利益 (利益率)	1,318 (5.6%)	1,819 (7.0%)	38.0%
精機			
売上高 ^{※注1}	9,608	10,957	14.0%
営業利益 (利益率)	942 (9.8%)	1,379 (12.6%)	46.4%
自動車部品			
売上高 ^{※注1}	22,280	19,858	▲10.9%
営業利益 (利益率)	3,027 (13.6%)	1,734 (8.7%)	▲42.7%
マテハン			
売上高 ^{※注1}	12,591	13,141	4.4%
営業利益 (利益率)	▲227 —	367 (2.8%)	—
その他^{※注2}			
売上高 ^{※注1}	1,328	1,297	▲2.4%
営業利益 (利益率)	78 (5.9%)	62 (4.9%)	▲19.9%

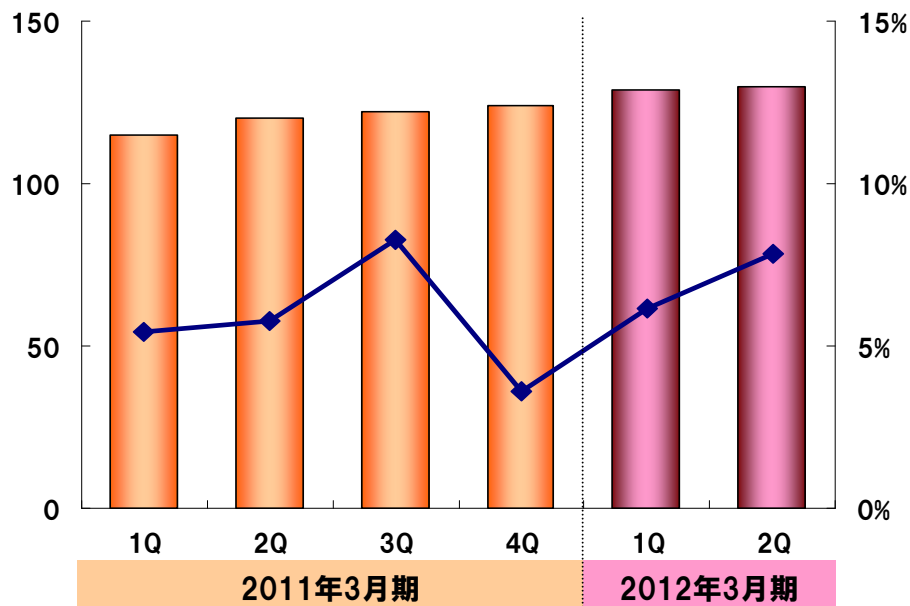
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

5. 上期レビュー 事業別概況

■ 売上高、営業利益率の推移

● チェーン事業



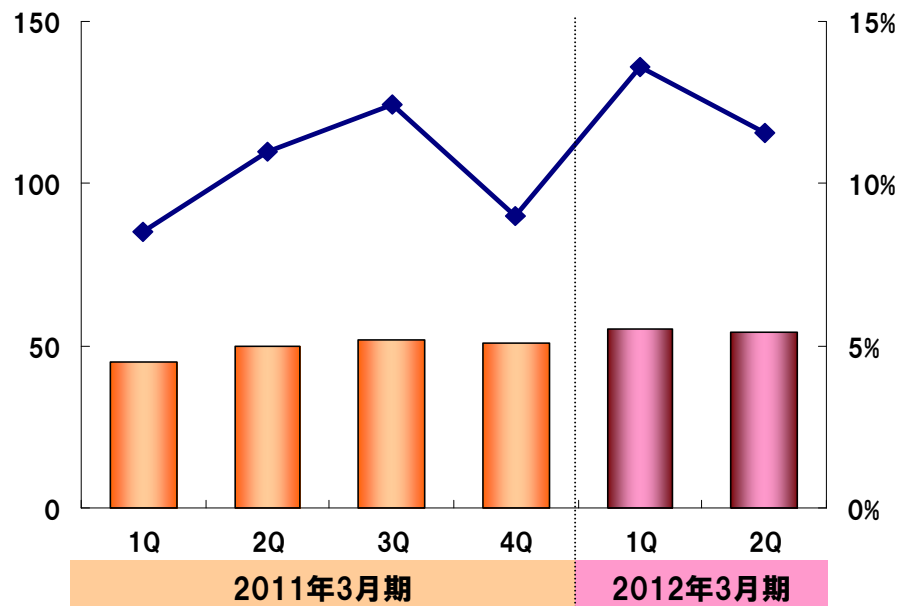
<業界別>

- 工作機械業界が好調。
- 鉄鋼、食品業界向けが堅調を維持。

<地域別>

- 日本、北米、欧州、アジア・オセアニアの各地域で販売が好調に推移。

● 精機事業



<業界別>

- 工作機械、造船、自動車、鉄鋼業界向けが好調。
- 液晶・半導体関連向けは、1Q好調も2Qより減速傾向。

<地域別>

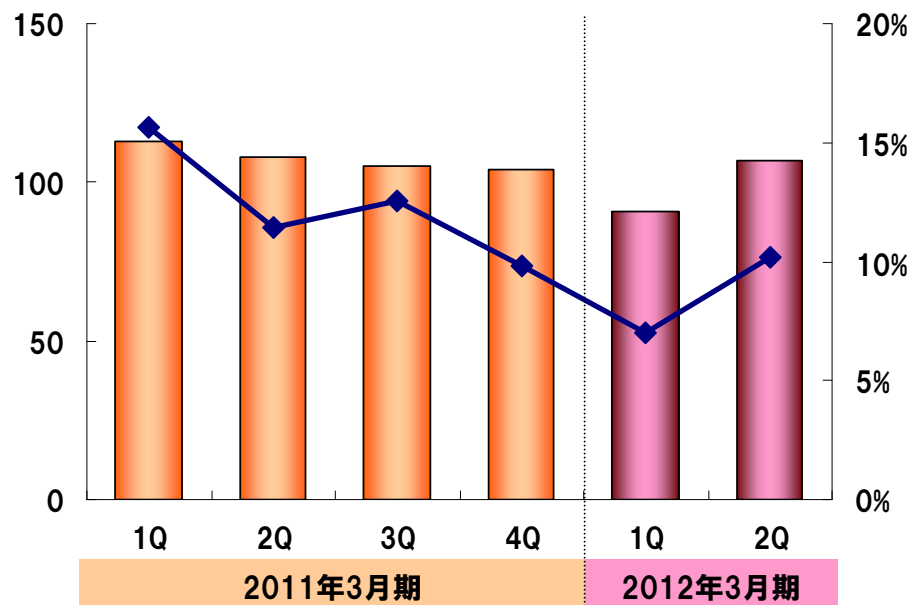
- 日本、北米、欧州、中国の各地域で販売が好調に推移。

単位：億円、 : 売上高、 : 営業利益率

5. 上期レビュー 事業別概況

■ 売上高、営業利益率の推移

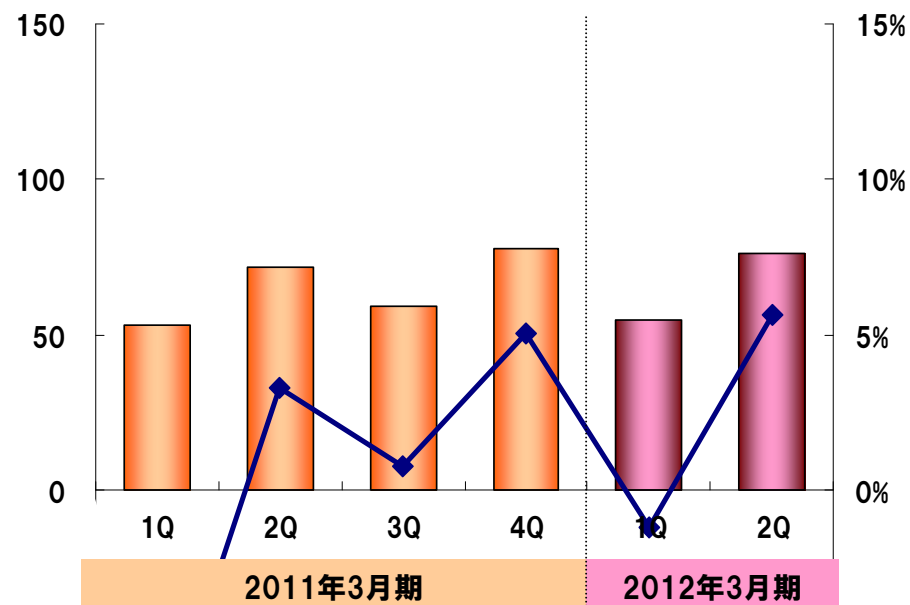
● 自動車部品事業



<地域別>

- ・ 震災影響などにより、日本、北米、中国が減収。
- ・ 7月以降は各地域で急回復。第2四半期の利益率は10%台へ。
- ・ 韓国子会社が新規連結。

● マテハン事業 ※「2011年3月期1Q」利益率=▲8.6%



<業界別>

- ・ 流通業界向けが震災の影響などにより低調。
- ・ 粉粒体搬送設備、工作機械向けコンベヤの販売が好調に推移。

単位：億円、：売上高、：営業利益率

6. 上期レビュー 所在地セグメント別内訳

産業用チェーンなどの販売が好調な欧州、鉱山業界が好調のオセアニアが伸長

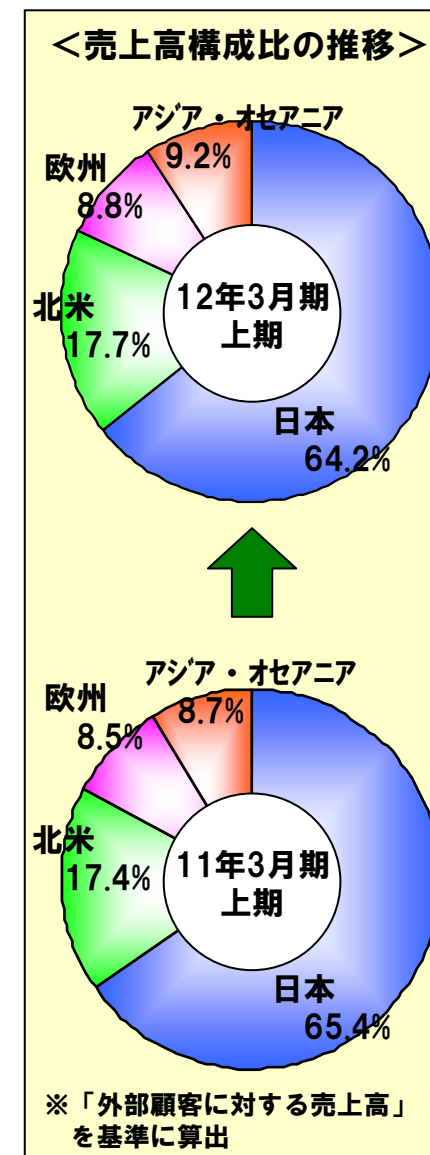
		(百万円)			
		2011年3月期	2012年3月期	前年同期比	
		上期実績	上期実績	増減額	増減率
日 本	売上高 ^{※注}	53,071	53,369	297	0.6%
	営業利益	3,876	3,912	36	0.9%
	営業利益率	7.3%	7.3%		
北 米	売上高 ^{※注}	12,033	12,708	604	5.6%
	営業利益	810	735	▲ 74	▲ 9.3%
	営業利益率	6.7%	5.8%		
欧 州	売上高 ^{※注}	5,931	6,332	400	6.8%
	営業利益	▲ 164	136	301	—
	営業利益率	—	2.2%		
アジア・オセアニア	売上高 ^{※注}	6,269	6,873	604	9.6%
	営業利益	850	784	▲ 65	▲ 7.7%
	営業利益率	13.6%	11.4%		
その他	売上高 ^{※注}	32	48	15	50.0%
	営業利益	▲ 26	▲ 22	3	—
	営業利益率	—	—		
連 結	売上高	68,270	69,865	1,594	2.3%
	営業利益	5,341	5,567	225	4.2%
	営業利益率	7.8%	8.0%		

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

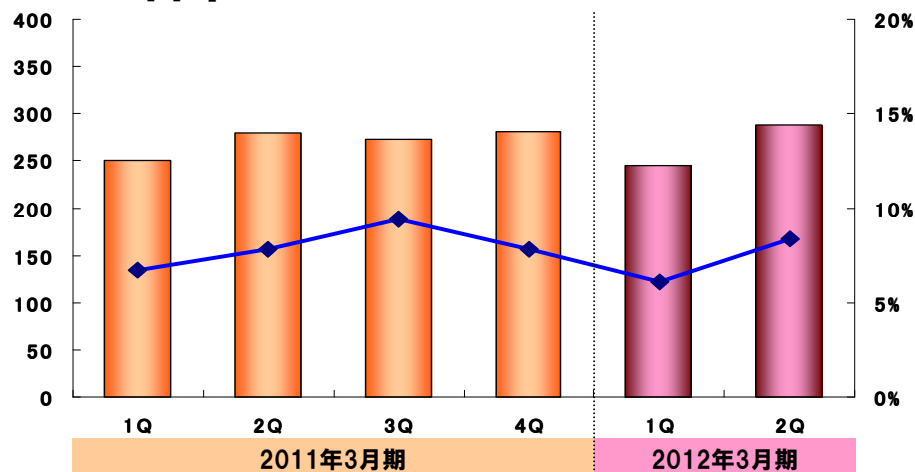
11年3月期上期：US\$=¥88.91, EURO=¥113.82, Can\$=¥86.00, A\$=¥79.31, THB=¥2.80, NT\$=¥2.78, RMB=¥13.38

12年3月期上期：US\$=¥79.75, EURO=¥113.73, Can\$=¥81.94, A\$=¥84.30, THB=¥2.70, NT\$=¥2.75, RMB=¥12.53

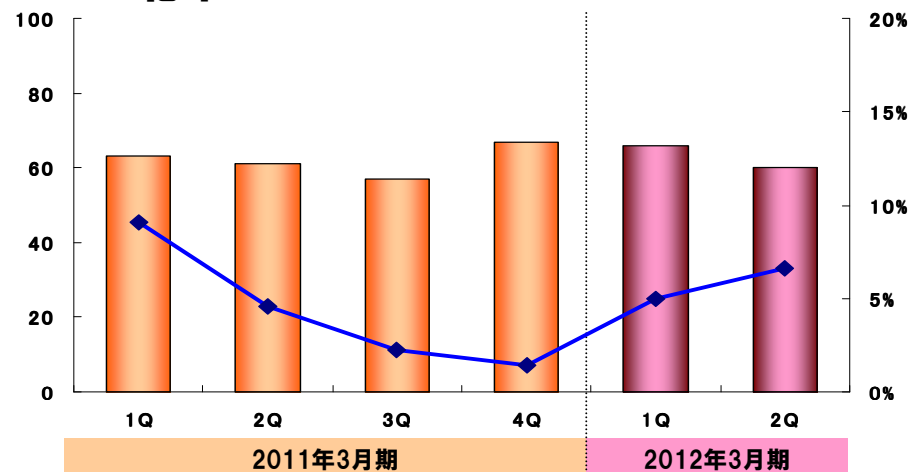


7. 上期レビュー 所在地別四半期毎の推移

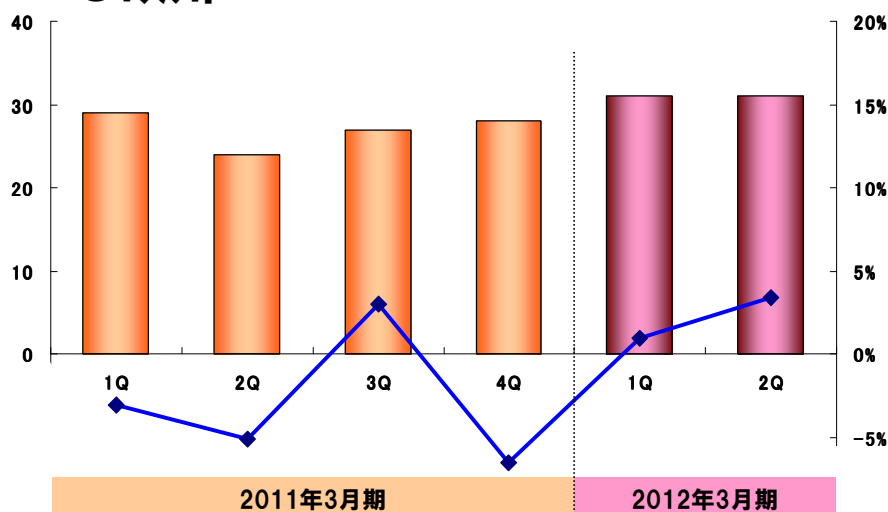
●日本



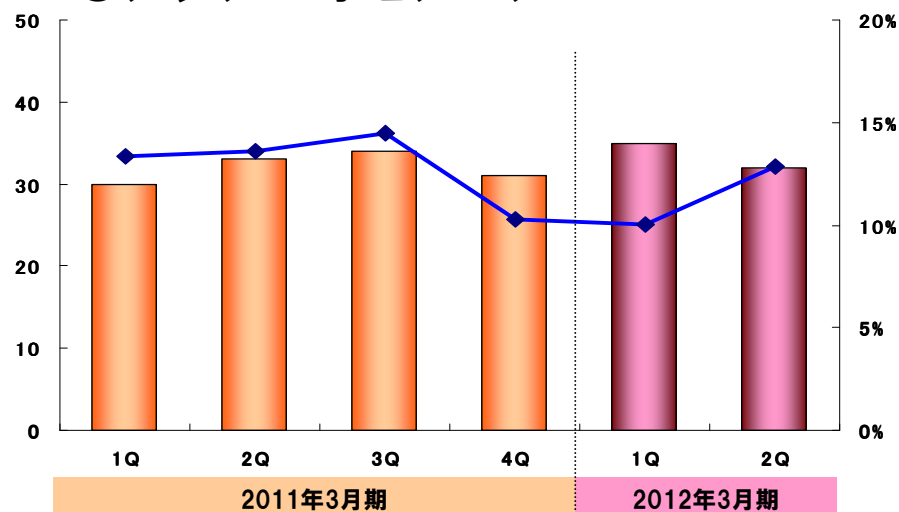
●北米



●欧州



●アジア・オセアニア



単位：億円、：売上高、：営業利益率

2012年3月期 通期連結業績予想

1. 12年3月期 通期業績予想

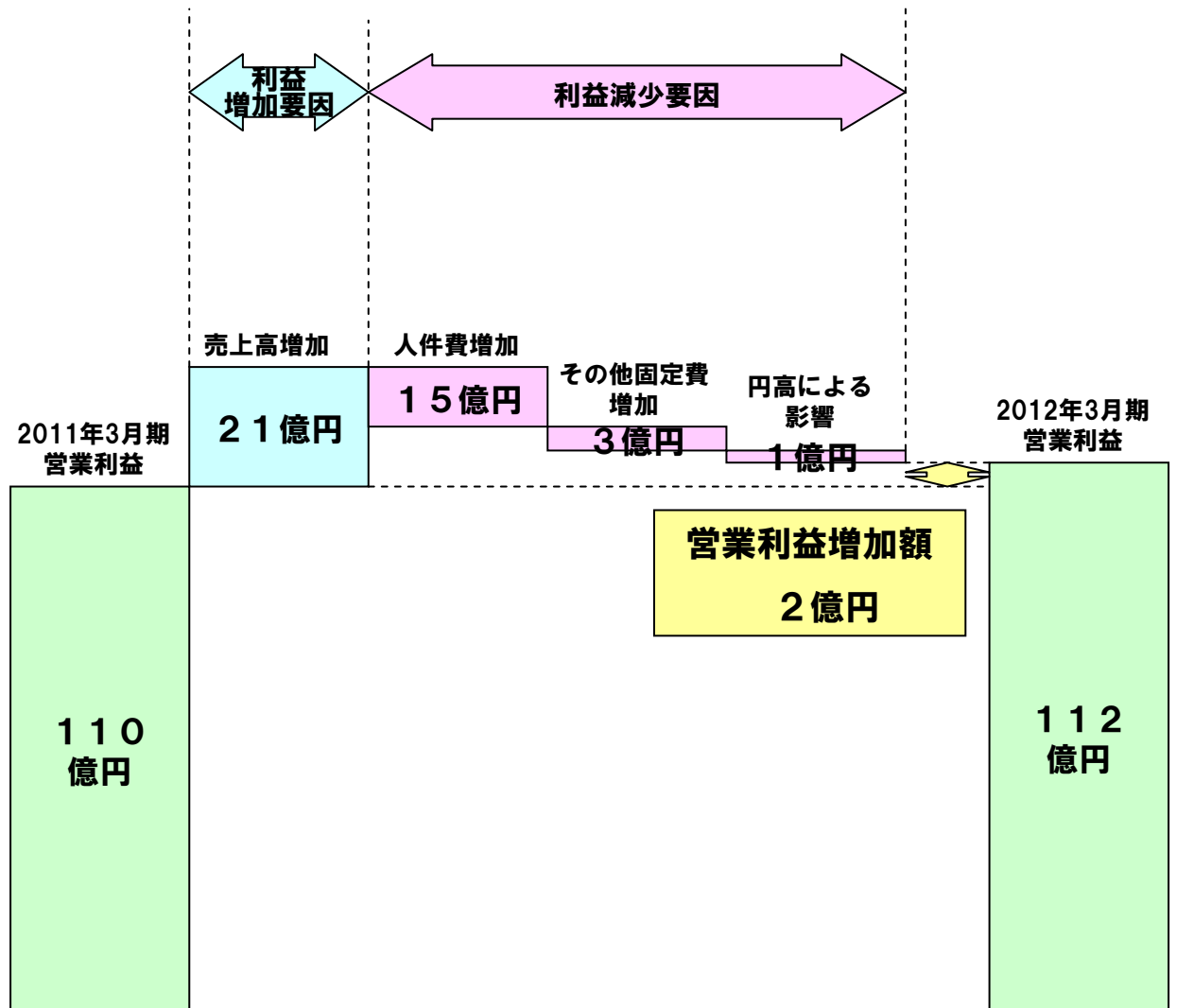
- 円高の長期化などにより景気の不透明感が強く不確定要素が多いため、通期業績予想は、本年8月5日発表の数値を据え置く

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期			対前期比	
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率
売上高	138,243	69,865	70,135	140,000	1,757	1.3%
営業利益	11,022	5,567	5,633	11,200	178	1.6%
営業利益率	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	0.0%	
経常利益	11,111	5,686	5,414	11,100	▲ 11	▲0.1%
当期純利益	6,093	3,108	3,092	6,200	107	1.7%
1株当たり当期純利益	32.76円	16.71円	-	33.33円	0.6	
(為替レート 1US\$)	85.74円	79.75円	-	80.00円		
(為替レート 1EURO)	113.14円	113.73円	-	110.00円		
1株当たり配当金(円)	7.00	3.00	4.00	7.00		

2. 12年3月期 営業利益増減要因分析

■ 2011年3月期実績 vs 2012年3月期予想



<営業利益増加要因>

①売上高増加 計21億円

<営業利益減少要因>

①人件費増加 計15億円

②その他固定費増加 計3億円
・製造経費、支払手数料増加等

③為替(円高)影響 計1億円

注記:

2012年3月期 第1四半期より
「TSUBAKIMOTO AUTOMOTIVE KOREA CO.,LTD.」
を連結子会社としました。
(前期までは非連結子会社)

3. 12年3月期 事業セグメント別通期業績予想

13

■ チェーン、精機、マテハンは増益、
自動車部品は下期回復も、通期では減益を予想

	(百万円)				前期比 増減率
	2011年3月期 実績	2012年3月期		前期比	
		上期実績	下期予想	通期予想	
チェーン					
売上高 ^{※注1}	48,262	25,964	24,336	50,300	4.2%
営業利益 (利益率)	2,780 (5.8%)	1,819 (7.0%)	1,231 (5.1%)	3,050 (6.1%)	9.7%
精機					
売上高 ^{※注1}	20,061	10,957	9,943	20,900	4.2%
営業利益 (利益率)	2,065 (10.3%)	1,379 (12.6%)	751 (7.6%)	2,130 (10.2%)	3.1%
自動車部品					
売上高 ^{※注1}	43,303	19,858	23,142	43,000	▲0.7%
営業利益 (利益率)	5,382 (12.4%)	1,734 (8.7%)	2,796 (12.1%)	4,530 (10.5%)	▲15.8%
マテハン					
売上高 ^{※注1}	26,340	13,141	12,759	25,900	▲1.7%
営業利益 (利益率)	215 (0.8%)	367 (2.8%)	453 (3.6%)	820 (3.2%)	281.4%
その他^{※注2}					
売上高 ^{※注1}	2,689	1,297	1,353	2,650	▲1.5%
営業利益 (利益率)	173 (6.5%)	62 (4.9%)	88 (6.5%)	150 (5.7%)	▲13.3%

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

4. 12年3月期 重点課題への取り組み

14

	2011年度重点課題	成果、進捗
1) グローバル・ ベスト戦略の推進	① ボリュームゾーン 「中国市場」の攻略	✓ 次頁ご参照
	② 欧州でのシェア向上	✓ (チェーン) ドイツ子会社による ドイツ市場開拓進行中 ✓ (自動車部品) 数社と技術面、営業面での 関係強化。 複数プロジェクト受注活動中
	③ ケーブルベヤの グローバル競争力強化	✓ カーベルシュレップ社の主導による グローバル商品戦略を展開中
2) モノづくり企業 としての基盤強化	① 自動車部品：「Zerotech」 シリーズの拡販	✓ 受注獲得（4社11機種）、 および客先評価中7社
	② エコ商品 (Ecology & Economy) による競争力強化	✓ 上期 9件のエコ商品を新発売 (年度目標：13件)
	③ ダントツ活動による 品質、生産性の向上	✓ 活動数 : 121 (ライン・台) 目標達成 : 75 (ライン・台) (国内・海外グループ含む)
3) ソリューション 提供企業への変革	① パワトラ販売ネットワーク への「IT技術」の活用	✓ 技術者向け会員制ネットワークの運用開始
	② モジュール・ビジネス (MB) の拡大	✓ MB部 - 商品構成の見直し ✓ フレックスリンク商品の販売本格化

4. 12年3月期 重点課題への取り組み

15

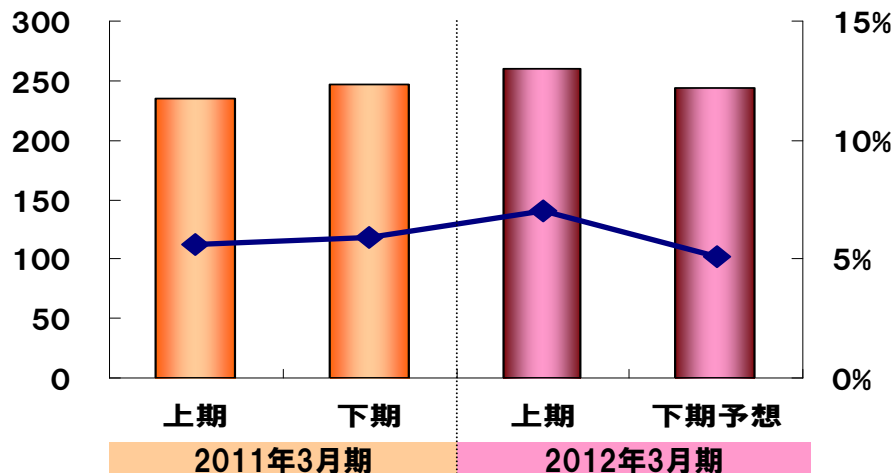
■ グローバル・ベスト戦略の推進

① ボリュームゾーン「中国市場」の攻略

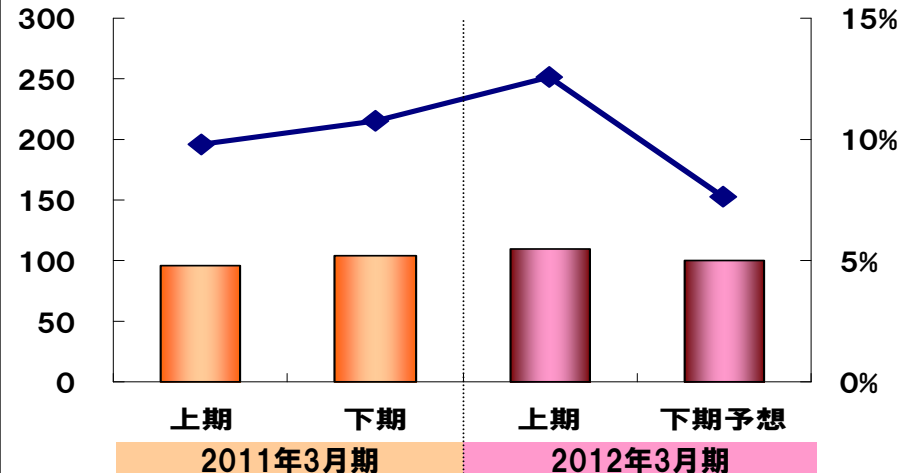
セグメント	テーマと方策	成果、進捗
チェーン	(課題) コンベヤチェーンの 市場競争力強化	<ul style="list-style-type: none"> 生産拠点設立予定 2012年9月 竣工 2012年10月～現地生産開始
	<方策> 現地生産拠点新設	
自動車部品	(課題) 中国現地メーカーからの 受注拡大	<ul style="list-style-type: none"> コスト低減仕様を 2社から受注 (約110万台/年)
	<方策> 低コスト「タイミングチェーンドライブ システム」開発 (コスト50%減)	
マテハン	(課題) 仕分けシステムの販売拡大	<ul style="list-style-type: none"> 「上海椿本物流系統設備 有限公司」設立 (10月1日付) ⇒ 流通業界向けに仕分け システムの中国市場参入
	<方策> 現地エンジニアリング 子会社設立	

5. 事業セグメント別 半期毎業績推移

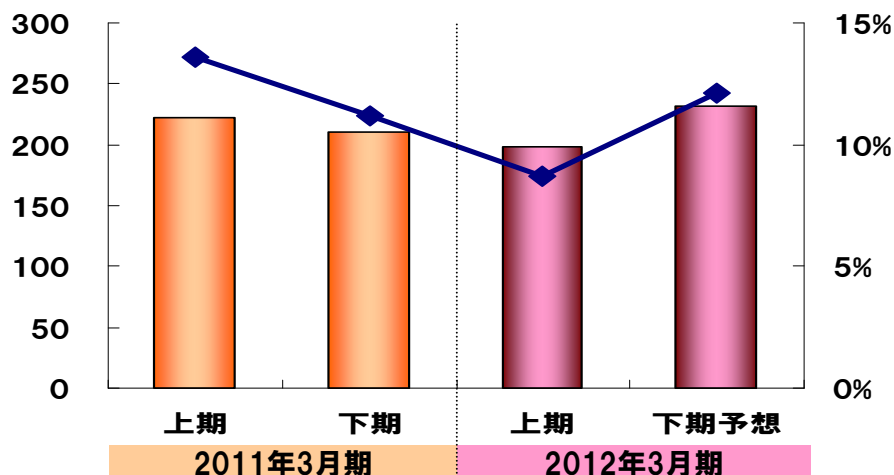
●チェーン事業



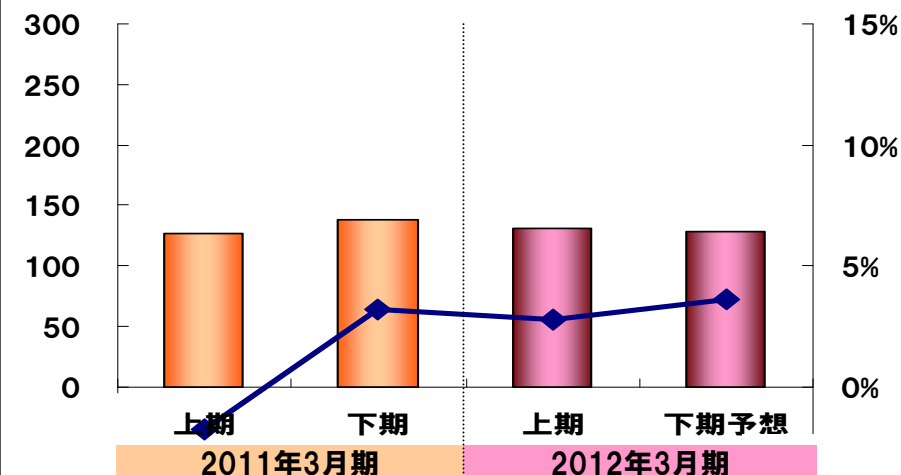
●精機事業



●自動車部品事業



●マテハン事業



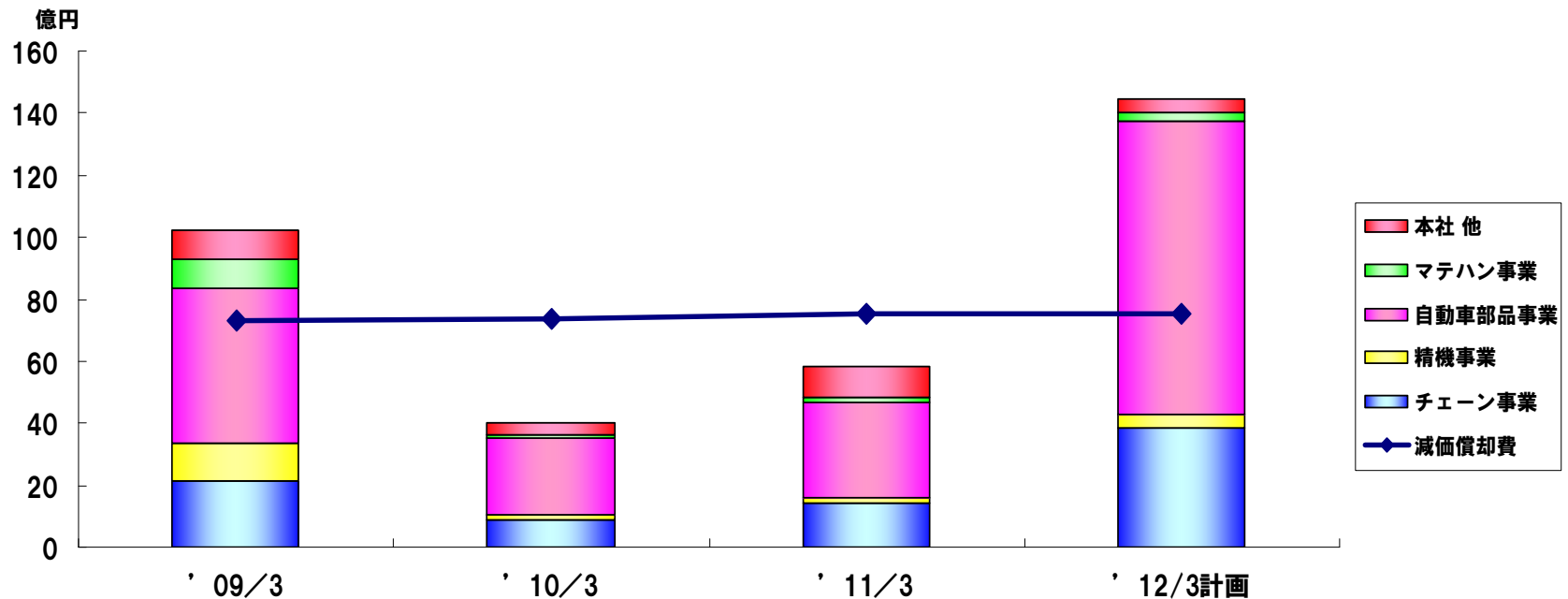
単位：億円、：売上高、：営業利益率

6. 12年3月期 設備投資について

■ 設備投資は、140億円/年（前期比80億円増）を計画

- ①自動車部品：増産対応、最適地生産化の推進
- ②チェーン：中国生産拠点の設立
京田辺工場の生産改革促進 など

● 設備投資と減価償却費の推移



設備投資	100億円	39億円	58億円	140億円
減価償却費	73億円	73億円	75億円	75億円

7. 12年3月期 設備投資について

18

■ 自動車部品事業におけるグローバル生産体制の強化 ～ 生産能力増強とリスク分散 ～

埼玉工場 : マザー工場としての新生産システムの実現

中国・タイ : 増産対応による工場拡張など

北米 : 現地化の前倒しなど（サイレントチェーンの一貫生産）

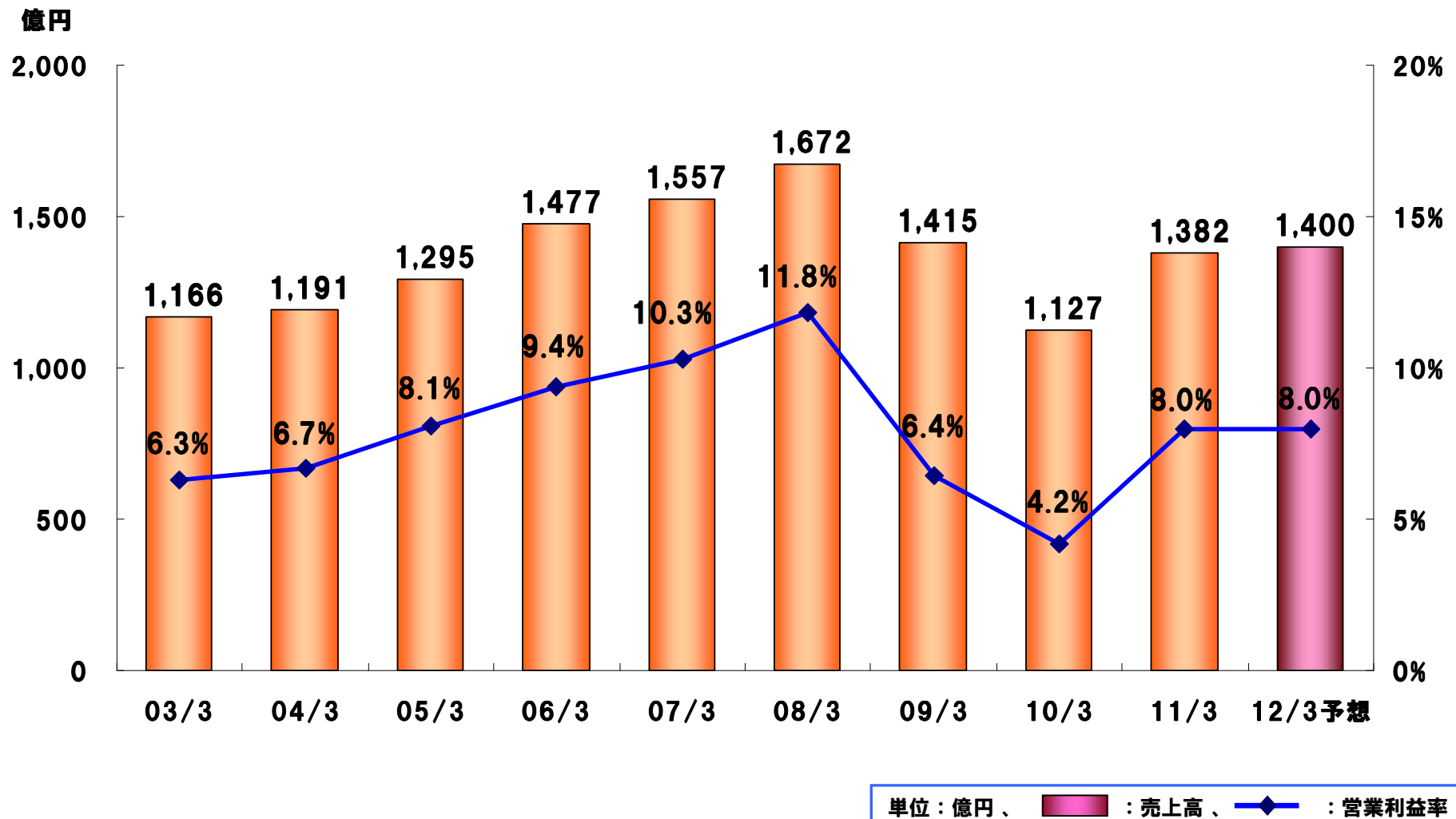
韓国 : 現地化の前倒しなど（部品供給基地としての機能強化）



自動車部品事業世界6極生産体制

8. ご参考 連結業績の推移（10年間）

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）

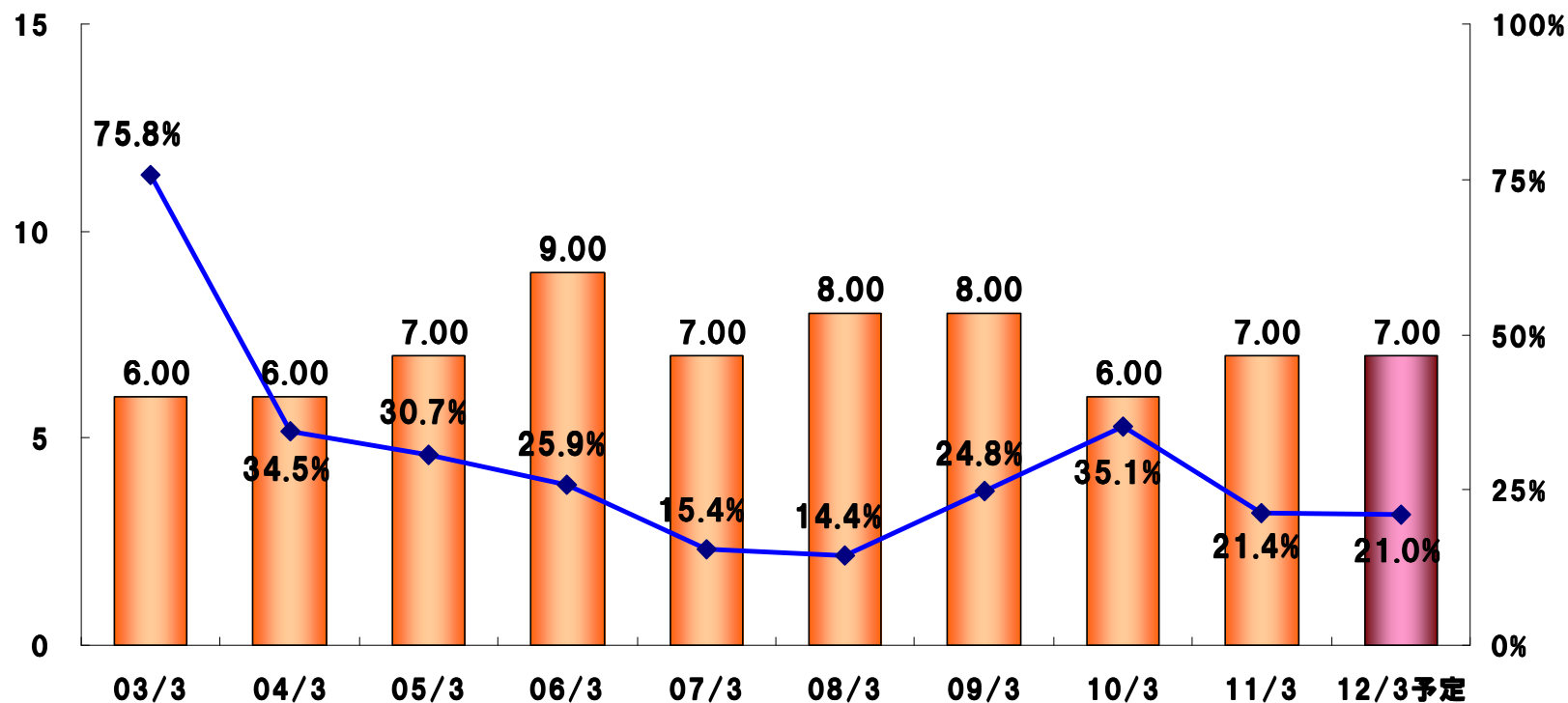


9. ご参考 1株当たり配当金の推移

■ 配当方針

- ・ 株主様に対する利益還元が経営の最重要課題
- ・ 年間1株あたり6円の安定配当
- ・ 業績・財政状態等を勘案した利益配分を実施

円/株/年



単位：円、 ：1株当たり配当金、◆：配当性向

**本資料には、業績予想および事業計画等を記載しております。
これらにつきましては、各資料の作成時点における
経済環境や事業方針などに基づいて作成しております。
したがって、各種要因により、これらの業績予想とは
異なる結果になりうることをご承知おきください。**